

京都さつきNEWS

Vol. 30

京都さつき法律事務所報 第30号 2017(平成29)年8月25日発行

発行人 京都さつき法律事務所 〒604-0931 京都市中京区河原町二条西入る榎木町95番1 延寿堂第二ビル2階

TEL 075-257-3361 FAX 075-257-3371 E-mail : info@kyoto-satsuki.jp HP : http://kyotosatsuki.xtr.jp/

編集責任者 山下信子

残暑お見舞い申し上げます

2017年晩夏

京都さつき法律事務所一同



第30号記念号

【さつきNEWS 30号企画】対談

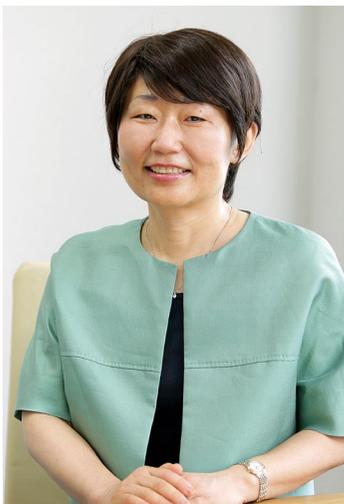
弁護士 山下信子 × 弁護士 本條裕子

本條：さつきニュースも平成15(2003)年1月に創刊号を発行してから、今回で30号となりました。その発行を記念して、私から山下弁護士にインタビューをしながら、さつき事務所の15年間を振り返っていきたいと思います。

山下：わずか15年で記念云々は恥ずかしいのですが、さつきニュースが30号まで続くとは予想していなかったの、その記念なら許されるかなと。年2回とはいえ発行を続けられたのは、たくさんの方の援助や励ましの言葉があったからで、本当に感謝しております。普段質問攻めをすることはあっても、質問されることには慣れていないので、何だか緊張しますね。

本條：そもそも、さつきニュースの発行のきっかけは何でしたか？

山下：すべて平井宏敏弁護士



の企画です。平井弁護士は、開業して半年のさつき事務所に入所した新人弁護士でしたが、銀行員、京都市役所職員を経た社会経験豊富な人でした。そんな彼から見たとき、弁護士11年目とはいえ、無計画に開業した私が心細げに見えたのかもしれませんが、そこで、依頼者や仕事で出会った方との繋がりを大切にすることが肝要と考えて企画してくれたのです。しかも、発行の事務的作業までも、すべて平井弁護士がしてくれました。

本條：平井先生が独立した後も、さつきニュースの発行が続いたのはなぜでしょう？

山下：読者のみなさんが、感想や励ましを葉書やメールで伝えてくださって、その手応えが嬉しかったから、それよりほかにありません。そのうち、仕事の中にニュースの原稿のヒントを探すようになっていきました。記事についての感想もありがたいですが、相談の予約の際に、「さつきニュースの読者です」と告げてくださることも嬉しいです。ホームページでバックナンバーを読んでから相談に来られる方もおられ、そういう方は最初から私たちに信頼を持ってくださっていると感じます。

本條：事務所開設当時は、どんなことをしていましたか？

山下：開業した翌月に、京都商工会議所の経済人や電鉄マンたちと、ドイツ、イタリアへ約

2週間、都市交通と路面電車の調査に行きました。「開業直後に事務所をほおって旅行に行った弁護士」としてレジェンドになりました。ひとりで留守番させられた事務局(三澤君)は、周囲の同情を集めていました。

また、当時は、COP3の開催地である京都市が、全国に先駆けて地球温暖化防止条例を作ろうとしている時期で、私は京都市環境審議会の委員として、その条例案策定の議論に係わりました。そのほか、京都市精神医療審査会の審査員をしていて、精神科に強制入院している患者さんからの退院請求が出されると、精神科のドクタと一緒に面談調査に行くなどしていました。

本條：開業したら、事務所経営を軌道に乗せることに集中するのが普通だと思っていましたが、本業ではなく公益活動の話から始まりましたね。本業はどうでしたか？

山下：本業も大変ハードな年で、人生の後にも先にも、事務所に寝袋を持ち込んで仕事をしたのは、この年だけでした。そのため不覚にも「有事法制」案が国会に上程されたことも気づかなかった気がします。

本條：仕事をする上でのこだわりは何でしょうか？

山下：笑顔で帰っていただけのような法律相談をすることで、少なくとも問題点が整理で



きれば、対処の方向も見えて来るし笑顔にもなれます。あと、司法研修所でも、イソ弁時代にも、「弁護士の仕事の根幹は、裁判官を説得できる書面を書くことにある」と教えられました。できているかは別として、心しています。

本條：開所当時と今とで、変わったなと思う点はどこでしょうか？

山下：多様な事件を担当し、人生としてもそれなりに山や谷を通して、依頼者の葛藤や孤独の原因がどこにあるのか、前よりよく理解できるようになった感じはします。ただ、それ以外はあまり変わった感じがしません。15年前と同じように、悩んだり、うぶに怒ったりしています。おそらく、ひとつとして同じ事件がなく、最後まで気を抜けないこと、次々に難しい依頼が寄せられるので、時間軸で自分の変化を確認することがないからなのだと思います。

本條：15年間の中でいろいろなことがあったかと思いますが、その中でも大事件トップ3を挙げるとしたら、どんなことがありますでしょうか？

山下：うー、3つもすぐに出て来ないのですが……本條弁護

士と出会ったことはトップ3に間違いなく入ると思います。私が京都大学法科大学院の非常勤講師をしていたときに会いましたので、もう8年も前になりますね。本條弁護士は、目立ってよくできる院生でしたが、弁護士になってからも優秀で、本條弁護士がいたから勝てた事件が随分あります。そして年々、強靱化巨大化していつてますね（「成長」などという生やさしい表現は、本條にはマッチしないのです。内緒ですが「ターミネーター本條」と言った人もいます）。この場で言うと自慢になるけれど、本條弁護士は、頭も心も若さもあるし、これからいつそう活躍の場を広げていてもらいたいし、そうできると信じています。

本條：恐縮です。さて、話は変わりますが、最近のさつきニュースでは趣味のフラの写真を公開していますが、フラのどのところが魅力でしょうか？

山下：たとえば高齢者施設で踊ると、楽しんでくださっていることがビジュアル的にわかるので、そこにハマりました。年齢に関係なくきれいなドレスを着られるのも嬉しいし、ともに年を取っていける仲間もできた

し、そんなこんなで恥を超越して写真を載せてしまいました。

本條：乙女ですね。では、好きな芸能人は誰でしょうか？

山下：ヒュー・グラント → イ・ビョンホン → 堤真一 → ディーン・フジオカと変遷し、今は斎藤工です。「良妻賢母教育内面化主婦」のミーハー王道を歩んでいます。

本條：真面目な質問に戻りますが、今後やってみたいと思うことや目標は何かありますでしょうか？

山下：先月の京都新聞に、演出家生活30周年を迎えた宮本亜門さんの記事があり、「これからも人間の魅力を伝えていきたい。戦争と反対のことを、自分にできる限りやっていきたい」と語っておられました。私も残りの人生を、本業を地道に歩みつつ、ささやかでも「戦争と反対のこと」をやっていきたいです。

本條：最後に読者の皆さまに一言お願いします。

山下：これからもさつきニュースをよろしく願います。



さつきNEWS 30号発行に 当たって

弁護士 平井宏俊



京都さつきNEWSの30号発行に当たり、創刊号から5号までの編集責任者であった私に山下弁護士からメッセージを書く機会を与えていただきました。

このさつきNEWSは、私の気まぐれな発想からスタートしたもので、弁護士を対象とするものではなく、依頼者の方たちに向けて、少しでも弁護士の素顔を知ってもらい親しみをもってもらおうというものでした。年2回発行と一応決めて、他の事務所報にはないゆるゆるとした感じで続けられたらいいなと思っていました。私が書かせていただいたのも、主に山下弁護士をネタに、皆様にも山下弁護士の実態？を知っていただきたいとの思いから「山下弁護士のため息」とか「山下弁護士の自転車」など、およそ法律には関係のないことを、鋭い観察眼？をもって思いつくまま書かせていただいていたいました。

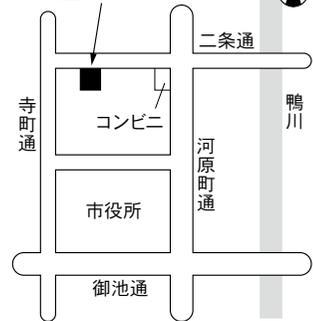
バックナンバーは、京都さつき事務所のホームページにありますので、ぜひご覧ください。

さつきNEWSは、当初私がすべてを取り仕切って発行していましたが、私が独立したあとはおそらく廃刊になってしまうだろうと考えていたのですが、予想に反して30号(ということは15年間)も続いていることに正直驚いています。私も既に還暦間近になりましたが、この年齢になってしみじみと思うのは、与えられた御縁の有り難さです。山下弁護士と出会い、京都さつき事務所にお世話になったのも、本当にたままのきっかけでした。その御縁のおかげで今の私があります。当たり前前に思っていたことが実は当たり前なんかではなく奇跡に近いものだということを実感として学ばせていただけるのが、歳を重ねることなんだと感じる今日この頃です。

皆様におかれましては、ご自分の人生を振り返り、これからの人生において本当に大切にしていきたいことを改めて考えてみる時間をもたれることをお勧めします。ご自分が生きる上で大切にしたいと考える3つの言葉(キーワード)は何かを考えてみることをぜひやってみただけいたらと思います。ちなみに私が大切にしたい3つは、愛と健康と好奇心です。新たには

事務所へのアクセス

京都さつき法律事務所
(延寿堂第二ビル2階)



河原町通二条の交差点を西へ入り、少し行った南側、漢方薬局「延寿堂ビル」の2階です。

交通機関は、地下鉄東西線又は市バス「市役所前」から歩いて5分弱、京阪三条駅から歩いても10分程度。

お車でお越しの際は、事務所専用の駐車場は設けておりませんので、付近の駐車場をご利用ください。

編集後記

さつきニュース第30号、いかがでしたでしょうか。少し遅いお届けとなりましたが、山下と本條の対談、平井弁護士からの寄稿と盛りだくさんでお届けいたしました。山下と本條の人となり、より感じていただけたのではないかな、と思います。ご意見、ご感想など頂戴できると、所員一同喜びます。改めまして、今後ともどうぞ京都さつき法律事務所をよろしく願いたします。

まだまだ暑い日が続きますので、皆さまどうぞご自愛ください。
(事務局 菅)

じめようとするのに臆することなかれですね。

最後になりましたが、30号発行をお慶び申し上げるとともに、山下弁護士にはどうか40号、50号と続けていただきたいと心より願っております。